

# JICA 中国事務所ニュース

(2007年2月号)

## 1. 最近のトピック

### (1) 中国環境プロジェクト形成調査団派遣！

2月7日から9日にかけて、本部アジア第二部東アジアチーム及び地球環境部から環境プロジェクト形成調査団が派遣されました。本調査団は、2007年3月に太湖の水環境プロジェクトが終了、2008年3月に日中環境保全センタープロジェクトフェーズⅢ(延長期間中)が終了する予定であることを受け、国家環境保護総局(SEPA)関連部署と環境11次五カ年計画の重点ポイントと具体的ニーズに関する意見交換を行うことを目的として派遣されたものです。

今回2日間という限られた時間ではありましたが、環保センターの4つの部署、ODA環境タスクメンバー、及びSEPAの6つの司と協議することができ、各部署が解決すべき多くの課題を抱えていることが確認されました。さらに、全協議終了後には、SEPA国際合作司の張処長より、今回の打合せが日中双方にとって有意義であったこと、JICAと今後も協力を継続していきたい旨が表明されたことから、非常に有意義な調査であったと思います。



中国の環境分野における協力ニーズは依然として高い(写真は黄砂の降る北京市)

環保センターについては、今後も日本からの環境協力が継続する限り、同センターを活用していくことが重要であるとの認識が双方で確認された他、センター自身も日中環境協力のプラットフォームになることを目標に掲げ、引き続きJICAからの協力を期待していることも確認されました。

なお、今後の案件形成においてメインとなる循環

型経済分野の支援については、その重要性について共通認識を得ることはできましたが、担当処長の日本来訪経験がないこともあり、循環型経済モデルについての認識が一致していない点も感じられました。このため、近々実施予定の担当処長の日本研修、専門家レベルでの対話などを通じて、将来的に日中双方にとって有意義な案件の構想を練っていくことが必要になると思われます。

また、SEPA政策法規司との協議では、環境関係法整備への協力は熟度の高い案件であるとの認識が日中双方で一致しました。とくに環境被害賠償法については、SEPA側の優先度も高く、日本から学びたいポイントも比較的明確で意義も高いことから早期の案件形成と実施が望まれています。

また当地の環境ODAタスクからは、今後の日中環境協力においては、ODAだけでなく民間協力やNGOとの連携が重要であると指摘されました。今後はこれらの視点を踏まえながら、本調査団派遣で確認されたニーズを整理し、案件形成を進めていく予定です。(企画調査員/長安美恵)

### (2) 人間の安全保障ビデオ撮影調査団来訪！

2月4日(日)から2月17日(土)までの予定で、本部企画・調査部/小池調査役を団長とする「人間の安全保障ビデオ撮影調査団」が来訪し、貴州省総合貧困対策プロジェクト、湖北省の菅JOCV隊員(看護師)、甘肅省HIV/AIDSプロジェクトなどの取材を行いました。

「人間の安全保障」とは「ひとりひとりの人間を中心に据えて、脅威にさらされ得る、あるいは現に脅威の下にある個人及び地域社会の保護と能力強化を通じ、各人が尊厳ある生命を全うできるような社会づくりを目指す考え方」であり、今回取材対象となった各案件もまさにこの考えが目指す方向性に合致した案件です。

まず最初に訪問した貴州省では、苗(ミャオ)の民族衣装を身にまとった住民による歓迎の踊りが調査

団を出迎えました。



苗（ミャオ）族による歓迎の踊り

このプロジェクトでは、活動の一環として住民に貸し出した牛やブタを使って、住民が現金収入を得、それによってその牛やブタの購入費用を返済しさらに新たな牛やブタを購入していくという、「リボルビング・ファンド」方式による貧困改善のための取組が行われています。

調査団は、住民の生活の現状や「リボルビング・ファンド」の様子、さらには本プロジェクトの委託先である JOICEP (家族計画国際協力財団) の専門家による住民の生活環境改善のための講習会などを対象に撮影を進めていきました。

湖北省通城県人民医院では、看護師として活躍する菅朋美隊員の様子や病院長のインタビューなどを撮影しました。菅隊員は、現在内科のスタッフとして活動しており、住民と直接触れ合う機会も多く、まさにひとりひとりの住民を中心に据えた活動を行っています。



HIV/AIDS プロジェクトによる  
地元住民への研修会の様子

また、甘肅省 HIV/AIDS プロジェクトにおいては、春節前に帰省してくる出稼ぎ労働者を対象としたエイズ予防啓蒙のための研修会が開催されている様子

やそれに参加する出稼ぎ労働者の暮らしぶりなどを中心として撮影が行われました。

撮影した結果は、3月末を目途に30分程度のDVDにまとめられる予定です。

### (3) 湖北会議

湖北省では2年に一度、湖北省に派遣されているボランティアを集めて、湖北会議が行なわれています。現在、湖北省に派遣されている隊員は10名。湖北会議に参加するためと、隊員の配属先を訪問するために出張してきました。隊員のうち3名は新隊員で、北京での現地語学訓練終了後に、湖北会議に参加。新隊員の赴任と一緒にという珍しい出張でした。



会議の様子

今年の湖北会議は応城市で行なわれ、隊員のほか、任地の科技局、配属先の方々が集まり、交流会や会議が行なわれました。会議の場では、隊員からの活動紹介、科技局・配属先の協力隊に対する成果などが発表されました。科技局、配属先の方々からの協力隊に対する評価は高く、また、隊員も配属先や科技局との関係も良いと感じました。また、同じ省内でも職種が違う隊員だとなかなか会う機会がなく、隊員同士にとっていい機会だったと思われます。

なお、会議後の交流会では飲みつぶされましたが、隊員、配属先、科技局の方々と一同にお会いすることができ、とても有意義でした。(ボランティア班/渡邊調整員)

P.S. ちょうど湖北会議が開催されていた日に、湖北省孝感市で毒ガス漏れによる事故が発生しました。事務所でも「まさか？」と一瞬焦りましたが、特に影響なく一安心というところでした。

## 2. 主な調査団(派遣中・派遣予定)(2月)

- 2/4-2/17 人間の安全保障関連取材調査団  
小池誠一 (太倉、貴陽、蘭州)
- 2/5-2/8 草原における環境保全節水灌漑モデル  
事業R/D協議調査団 土居団長
- 2/7-2/10 日中友好環境保全センターPJフェーズⅢ  
運営指導調査団 伊藤裕康

## 3. 2月の主要行事

なし

## 4. 専門家・ボランティアコーナー

今回は番外編として、1月に赴任された古川ボランティア調整員からいただいた、中国からは遠い遠い前任地アフリカについての投稿をご紹介します。

古川さんは、これまで約10年間にわたりエジプト、マラウイ、ウガンダの各国で協力隊調整員として活躍され、今年1月に初めて中国に赴任されました。

アフリカでの長い経験からまだ中国とのカルチャーギャップを感じることもあるとのことですが、これから徐々に慣れてこられることと思います。

### ウガンダという国

わたしの前任地はウガンダです。ウガンダはケニア・タンザニア・スーダン・コンゴ(民)、ルワンダに囲まれた小国。面積は本州と同じくらい(中国は日本の25倍)。人口は2800万人(中国は13億人)。一人当たりのGNIはUS\$280(中国はUS\$1700)。在留邦人は166人(中国は11万4千人)、同じJICAが業務を行っている国とはいえ、中国とはかなり異なった国であるといえます。

ウガンダには赤道が通っています。わたしが住んでいた首都カンパラも、北緯0度20分くらいでした。また、標高が1200mほど。このため、年中初夏の非常に暮らしやすい気候となっています。適度な降雨もあります。ユダヤ人がイスラエルを建国する際に、ウガンダが候補地に上がったという話も、この良好な気候が理由だったのでしょうか。主食のひとつがバナナなのですが、バナナはほっておくと黄色く甘くなり主食に適さなくなります。こんな保存のきかないバナナが主食というのが、ウガンダの気候の良さを如実に物語っているといえましょう。

さて、この国を悩ませていた大きな問題が、LRAと

いう反政府ゲリラの存在でした。スーダン南部を拠点にして、ウガンダの北部で暴れまわっていたのです。反政府ゲリラが「暴れまわっていた」という表現はちょっとおかしいのですが、政府への要求もなく、ただただ暴れまわっていた、というのが現状でした。



赤道上でコリオリの定理の実験実演(赤道上ではうずが巻かないという実験)

リーダーに新聞記者が取材をし、その内容が新聞に載っていましたが、「わたしは神に選ばれた子で、神の啓示にしたがっている。」「神は偉大だ!」と要領を得ません。それならそれでほっておいていいかというところではなく、暴れようがすさまじいものでした。村々を襲って殺人、捕まえた人の耳や鼻をそぎ落とす、子供を誘拐して、男子は戦士に仕立て上げ村々を襲わせ人殺しをさせる、女子はゲリラ幹部と結婚させられる。わたしがウガンダに赴任した1年目の2004年は毎日毎日そのようなニュースが一面を飾っていました。

このLRA。スーダンの南北対立による内戦の終結により、拠点を奪われ、次第に弱体化してきています。わたしの任期後半の新聞はこのLRA弱体化のニュースが頻繁に扱われてきました。LRAの幹部が殺された。しとめられた。3人の息子を誘拐された母親のもとに、次々とその3人が帰ってきた。LRAは拠点をスーダンからコンゴ(民)に移した。誘拐によりLRA幹部の妻となっていた女性たちが故郷に帰ってきて泣き崩れた、そんな少しは明るいニュースもありましたが、LRAに誘拐され解放された女性の多くがエイズ等の性病に罹患している。自分の家族殺しを強要された元少年兵は解放後もいつまでも精神疾患に悩まされている。などなどのニュースは、LRAのゲリラ活動の残した限りなく暗い部分が伝わってくるものでし

た。

ウガンダは最初に述べたように、気候の非常に良い国です。この地球に北も南もなく、ただただ海があり、ウガンダ島が浮かんでいるだけであれば、「楽園」そのものだったのかもしれませんが。しかし現実には南や北に土地があります。楽園ウガンダ周辺に降った雨がナイル川に注ぎ、流れ流れて砂漠のエジプトに古代文明をもたらし、現在の複雑な世界を作ってしまったのは、歴史の皮肉といえるかもしれません。



カンバラ名物アフリカハゲコウ（コウノトリの一種）、ごみを漁って生きている大怪鳥

中国のように長い歴史と文化、広い国土を持つ国と、アフリカの小国では比較するにも余りにも違いが大きく、これまでの生活環境ともかなり違った毎日になると思っています。中国のこともこれからいろいろと勉強していきたいと思しますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。（ボランティア班/古川調整員）

P.S. この原稿を書いた日に、映画「ラストキング・オブ・スコットランド」でウガンダの独裁者アミンを演じたフォレスト・ウィットカーが、アカデミー賞主演男優賞を受賞したとのニュースが入ってきました。何と言う偶然！この文章を読んだ皆さん、これも何かの縁かも知れません。是非映画「ラストキング・オブ・スコットランド」を見てください。わたしがウガンダ在任中にフォレスト・ウィットカーを含むハリウッドスターがロケにやってくるとのニュースがウガンダで流れていました。実際に処刑場として使われ、現在でも誰も住もうとしないあるカンバラ郊外の地でも撮影をしていたそうです。

他にウガンダが舞台となった映画としては、ユダヤ人乗客を乗せた航空機が乗っ取られ、ウガンダのエンテベ空港に着陸、それをイスラエル特殊部隊が襲撃し、乗客乗員を助け出したという実話に基づく「エンテベの勝利」という映画もあります。

\*。専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所周南 (zhounan.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。